

「秋田大学みらい創造基金学生海外派遣支援事業」 帰国報告書

記入日：2017年7月10日

所属：教育文化学部 地域文化学科 4年次
氏名：伊藤 滯未
派遣先大学名（国）：グリフィス大学（オーストラリア）
在籍身分：留学生
派遣期間：11 か月
渡航年月日：2016年7月11日
帰国年月日：2017年6月15日

○派遣先大学における授業等の履修状況

Language and Communication for business and commerce
Information Systems for Services industries
People and Places in the service industries
Communication Across Asia
International Food & Beverage Management
Understanding Asia
(各 10credit)

○研究・学習概要及び今後の勉学計画

Language & Communication では英語でレポートや論文を書く際の基礎知識を習得しました。大まかな構成の立て方や細かい英語表現まで勉強し、卒業論文の際のよい参考になる授業でした。そのほかの授業では、主に観光学とアジア学の領域を中心に履修しました。将来は観光系の職業に就きたいと考えていたため、それに役立つような授業を選択しました。International Food & Beverage では3人のグループで5つ星ホテルに入るレストランのプランを立て、メニュー、飲み物、お店のデザインなどを考えました。頻繁にグループで話し合いをし、皆が納得のいくレストランに仕上がるように試行錯誤しながら進めました。アジアに関する授業である Communication across Asia と Understanding Asia では、オーストラリアから見たアジアを勉強することができました。自分の文化では当たり前のことが紹介されていたり、反対に自分が知らなかった日本の政治経済の歴史などを学んだりしました。

○生活面について

グリフィスでは学期の初めに交換留学生向けの交流イベントがあり、そこで多くの友達ができました。学期中も様々なイベントが開催されていて、無料で映画を見るイベントや海や森を掃除するイベントなどがあり、飽きることがありません。近場の観光地への小旅行なども定期的に企画されていて、交流の機会はたくさん用意されています。

私はネットでシェアハウスを探して住んでいました。難しい契約等はなく、オーナーに直接連絡を取り、下見に行ってから bond と呼ばれる数週間分の家賃を先に支払って入居するのが一般的です。住民票などもないため、引っ越しも簡単です。

オーストラリアは移民国家であるため、各国の料理が食べられます。日本食レストランも多く、日本の食材を売っているお店も多いです。ただ、物価が高く外食は日本よりも高つくので、私は基本的に自炊していました。新鮮な野菜や果物が安く売っているため、日本では珍しい野菜や果物をよく食べていました。



シドニーのジェラート屋 *icreamy*

○その他留学全般にわたる感想

留学の初めのほうはコーヒーの注文をするのもドキドキしていましたが、段々と慣れていき、様々なことに挑戦することができました。留学中はアルバイトも行い、学生以外の友達もでき、視野が広がりました。私はゴールドコースト、シドニー、ブリスベンに住んだため、各地で新しい人との出会いがありました。1人で新しい土地に踏み込むのは不安もありましたが、好奇心のほうが上回っていました。これらの都市は、同じ国内にも関わらず異なる特徴や雰囲気を持ち、その違いを体感するのが楽しかったです。

オーストラリアでは人と人とのつながりが強く、店員さんとお話をしたり、道で知らない人に話しかけられてお話ししたりすることが多く、とてもフレンドリーな国民性だと感じました。お互いを尊重し合って近すぎず遠すぎない人との距離感がとても心地よかったです。

留学全体を通して、多くの人に助けられたと感じています。人の紹介で住む場所を見つけたり、アルバイト先を見つけたり、困っているときは助けてもらったり、人の助けが充実した留学生活をつくってくれました。

○渡航費補助について

留学準備の中でも、多くを占める渡航費を補助して頂けたことは、大きな助けとなりました。秋田大学みらい創造基金に寄付してくださった皆様に御礼申し上げます。



twilight walking tour (本人：一番左下)



オペラハウス